全ての民主的学友は
民学同に結集しよう

新入生歓迎号
NO. 67
1970年4月15日発行

民主主義の旗

発行所
民主主義学生同盟全国委員会
編集局 振替（大阪）13014
大阪市阿倍野区松崎町4－1－14
東京支局・新宿区荒木町5
＜1部 20円、1ケ月 70円＞

国際学連の旗の下
単一全学連を再建しよう

民学同 12大会圧倒的成功
70年闘争方針と新指導部確立

さる三月十三、十四の両日、全国各地からの代議員・評議員の出席のもと、民学同第一二回全国大会が圧倒的に開催された。

大会第一日目の十三日には、昨秋の学園闘争および一〇・二一国際連帯闘争から十一月佐藤防米阻止闘争に到る〈安保―沖縄―大学〉闘争の総括を、全国、全関西学生共闘の大衆的決起をふまえて討議し、あわせて七〇年闘争をめぐる情勢討論が行われた。翌十四日は、同盟内に存在した一部日和見主義分子の大会破壊策動があったが、全国委員会、全国代表委員会の諸決定に基づき全国の諸同志はこれに断固たる批判を加えて同盟の戦闘的統一を守り抜き、大会討議を続行した。この日は四月以降の七〇年闘争方針、組織方針をめぐる討議が行われ、更に特別報告として沖縄現地報告があり、闘う意志統一を深めた。次に、新たに結成された支部から決意表明がなされた。

白熱したすべての討議が終了したのち、過半数を圧倒的に越える代議員の出席のもと、大会草案および委員長のまとめを一括して全会一致で採択し同時に七〇年を担う新指導部の選出が行なわれた。

七〇年闘争の更なる激動を前にした今一二大会の成果は、第一に七〇年を闘い抜く戦闘的闘争方針を全同盟員の手にかちとったこと、第二に、民主集中性の原則を堅持し、同盟の戦闘的統一をかちとったこと、第三に、七〇年を担う新指導部を確立したことである。

なお、大会は、一部分子の策動に対し、次のような決議を特別に採決した。

決議

〝同盟第12回大会に結集された全国の同志諸君！

われわれはこの間の種々の困難な情況を同志的な連帯と科学的な党派性の貫徹によって克服し、全国代表委員会の全会一致の決定にもとずき、ここに同盟第一二回大会を圧倒的に成功させたことを高らかに宣言する。

同盟全国委員会は七〇年代反独占闘争を闘い抜くために今大会の意義を重視し、大会成功のために最大限の努力をはらい、種々の理論的、組織的問題の解決に全力をあげてきた。しかるに阪大、明大等の一部諸君は全国代表委員会の決定をふみにじり、全国大会に応じようとせず大会をボイコットしたのみならず、大会を暴力的に破壊せんとする破廉恥な行為をとるにいたった。われわれは彼らのかかる行為を大会の名において怒りをもって糾弾する。

このような同盟破壊策動は、われわれの共通の敵、真の敵である日本帝国主義を喜ばせる以外に何らの実りある成果をもたらすことはありえない。

われわれは、今大会で意志統一された沖縄―安保―大学闘争の闘争方針にもとずき、四月以降の大衆運動を大衆的・戦闘的に闘い抜くなかで光輝ある民主主義学生同盟の伝統を守り抜き全国二五〇万学友の期待にこたえなければならない歴史的任務をもっている。

かかる任務達成のうえで同盟の戦闘的統一の意味するものはあまりにも重要である。

われわれは大会ボイコットと大会の暴力的破壊活動に狂奔した一部諸君の行為を弾劾し、かれらに対して厳しい自己批判を断呼として要求する。

われわれは、かれらが全国学友の期待にこたえ卒直に自らの非をあらため、わが同盟の戦列に一日も早く復帰することを切に要望する。

全国の同志諸君、ならびに学友諸君！

われわれは大会の成功を基礎に、光輝ある民主主義学生同盟の伝統を守り抜き激動の七〇年代闘争を全国学友の先頭に立って闘い抜くことを全国学友のまえにはっきりと宣言する。

民主主義学生
国大会
昭和四十五年
（全

侵略と反動の佐藤内閣打倒！

4・28沖縄闘争の爆発的昂揚を！

70年闘争の任務
―沖縄・安保・大学―
民主主義学生同盟全国委員会

全国の学友諸君！ そして新たに学生戦線に結集した新入生諸君！ われわれは今、歴史の一分岐点ともいえる〝七〇年〟に位置している。そのわれわれに要請されている任務をはっきりと確認しよう。

七〇年安保闘争は、〝安保破棄―沖縄基地撤去・即時返還〟をはっきりと掲げ、日本独占の帝国主義的再編策動に全戦線において対決し、侵略と反動の支柱＝佐藤内閣を打倒してゆくたたかいである。さらにそれは、七〇年闘争を勝利的にたたかいぬくなかで、七〇年代反独占闘争の展望を切りひらき、独占体制に根本的な策転換を余儀なくさせるとともにそのたたかいを担う反独占統一戦線形成の展望を切り拓いてゆくたたかいである。

このたたかいは、すでに沖縄全軍労の果敢なスト闘争によって幕が切って落とされている。同時に一～二月の低迷を打ち破り総評をはじめとする労働者階級は3・15春闘第一波五〇万の決起に引き続き3・27第二波、4・3第三波と七〇年闘争の大きな胎動を開始した。

一方、こうした闘いに対して、日本独占の巻き返しと攻撃も極めて厳しいと言わねばならない。政府は、軍事力強化―核武装への策動と布石を次々と打ち、反動立法の攻撃も激しい。更に「労働戦線の統一」を唱導しての、右への再編も執拗に繰り返されている。

こうした中で、今春期の闘いの任務は緊急かつ重要である。

【1】総評労働者と連帯し、課題と基本戦術の一致に基づく共闘で4・28統一行動を圧倒的に闘い抜こう

四～五月闘争の最大の環は4・28沖縄闘争である。いうまでもなく七〇年安保闘争は、政府独占の側からの「核安保」「アジア安保」への侵略的再編に対し、われわれが沖縄の基地撤去・即時返還を主軸にこれを切りくずしていくものである。われわれのこうした反撃は、独占が同時的に遂行する諸攻勢のうち最も大きな摩擦を余儀なくするものが沖縄核付返還と軍事力強化―独自核武装の策動にほかならぬ以上、敵の最も弱い所に刃先を向けるものであることを確認しよう。

しかも、政府独占は「沖縄問題」はすでに解決した、としてその回避を企図しているが、にもかかわらず沖縄闘争は昨秋闘争の重要な課題であったし、何よりも今年初頭の二波にわたる沖縄全軍労のスト闘争がかかる政府独占のデマゴギーの虚偽をうち砕いた。

われわれが一貫して主張してきたように、かかる沖縄全軍労の闘いは何より本土における闘いを要請している（本紙前号参照）し、ここにこそ、四・二八闘争の持つ

極めて重要
れはこの闘
最大限の戦
らない。そ
争委などの
を下からく
規模での一
させていと
は昨年10・
学共闘の実
年部（大阪
電通）との
の旗の下、
決起をかち
の実現は、
致〟という
した、真に
一戦線の橋
この4・
われわれは沖
ゼネスト連
（あいばの）
対闘争をた
ない。

饗庭野ミサ
闘いは、日本
化の過程でそ
面、すなわち
と核武装化へ
占が歩み始め
の闘いである
の姿勢は、全
長官が公然と
衛五原則」な
うちされてい
すでに原水禁
保実行委関西
みを決定し、

【写真】2
した学友

4 ナ

四月十九日あ
地設置反対現地
ブロック、反安
ック、阪神中京
反対連絡会議の
あいば野ナイ
米共同声明以降
格的海外侵出を
き日帝にとっ
環〟である軍事
て存在している

3-28 中教審公聴会 抗議闘争

去る三月二八日、政府は先に提出された中教審特別委報告の「国民的合意」をとりつける策動の一環として、東京に引き続き大阪中之島日生ビルにおいて「中教審公聴会」を開催した。わが同盟はこれが、まさしく大学への帝国主義的再編の攻撃の一環であることを確認し、その反動的意図の暴露のために抗議行動を組織した。

三月二八日阪大中之島講堂前において「中教審公聴会抗議、民主的改革闘争勝利」総決起集会が全関西学生共闘三百の決起で勝ちとられた。

同日、阪大講堂隣りの日生ビルで「高等教育改革に関する基本構想試案」に関する中教審公聴会（文部省主催）が開催されていた。

一昨年以降全国学園における闘いが一定の停滞局面を向かえているなかで政府独占は一月十三日中教審中間報告を発表し、大学の目的別ー格差付再編成を実現せんとしている。三月十六日東京に続き、大阪の公聴会は形式的に国民の声を聞く姿勢をつくりあげ〝国民の合意〟のもとに再編成を押し切ろうとするものである。発言者、内容の指定はこの策謀のあらわれてあり、当然のこととして二度の公聴会は参加者が少なく盛りあがりの全くないものとなった。

関西各学園において民主的改革闘争をになってきた学友は、春休み、試験期等の困難な情況にあっても政府独占の狙いを暴露し反動的再編成を断固拒否し、民主的改革闘争勝利に向け三百の隊列を実現した。集会においては各大学の闘いの報告があり、中教審答申粉砕、その実質化阻止、4・28を中心に安保ー沖縄闘争との結合のなかで民主的改革闘争勝利の大衆的闘争体制の構築に向けての決意表明がなされた。阪大院生からの連帯のアピールを受け、今後の共同闘争実現に向けての意志表明に集会に結集した全ての学友は拍手でもって応えた。全関西学生共闘が統一行動のたびに強調してきた原則ー課題と基本戦術の一致ーは大衆的決起の力によって全ての団体による共同行動の実現への展望を切りひらいてきたのである。集会ののち、公聴会会場周辺ー梅田まで官憲の弾圧をはねのけ、戦闘的デモを貫徹した。

3・1ビキニ・デー
原水禁討論集会開く
民学同も積極的参加

去る三月一日、二日の両日、静岡県焼津市内の市民センターにおいて、「ビキニ被災十六周年、3・1ビキニ全国討論集会」が、原水禁国民会議の主催の下に開催された。この討論集会は、これに先きだつ一月二五～六日の原水禁全国活動者会議において確認された活動方針に基づくものであり、同時に七〇年代の原水禁運動の任務についてのひとつの方向をうち出すものとしてきわめて重要な位置にあるものであった。わが同盟もまた、わが同盟の指導する平和委員会とともに積極的にこの討論集会に参加した。

われわれが、何より確認せねばならないことは、資本主義の全般的危機の第三段階の下で、①社会主義世界体制の優位と、②民族解放闘争の勝利的展開、③先進資本主義国における反独占闘争の昂揚——の三つの力に規定され、もはや帝国主義戦争が不可避ではなくなったことである。しかしそれは「帝国主義戦争が「不可能」になったことを意味しておらず、その危険性は常に存在していることもまた事実である。そして、ここにこそ、平和運動の独自の（他の戦線とは相対的に異なる）重大な意義と役割がある。

その世界的な平和運動の前進の中で、日本平和運動は大きな役割を果してきたことを明確に評価しつつ、同時にその弱点＝不充分点が、最も広汎に大衆の参加と支援を確保してきた原水禁運動の中に言わば集中的に表現されていることを認めねばならない。

われわれは、この弱点が国民会議の組織の枠内だけで解決しようとするのでなく、政党の指導の問題および構成諸団体の主体的取り組み等の問題と併行しつつ、われわれが確認したこの運動の不充分点、すなわちこの運動の政治方向が戦争政策の中心に打撃を与えるように向けられているかどうか、また運動の主導権を誰が握り（職場・地域の大衆）、誰がこれを支えているかを、今後追求してゆく必要がある。

さらに、学生戦線における平和運動の独自の主体（平和委員会など）の再建も、今後重要であると言わねばならない。

弾圧招く重大な挑発行為
「赤軍派」日航機乗っとり

[illegible]による日航機「よど[illegible]取り行為の結末は、「赤軍派」の共和国入りと、人質の乗客、乗務員全員無事救出という結果により、一般受けのする形で一応幕を閉じたかにみえる。

しかしながら、われわれは、この転末の中で「赤軍派」の集団の演じた断固糾弾すべき挑発行為と、それをも巧みに利用した形で大衆の中に反動イデオロギーのより一層の注入と、われわれ民主勢力の側へのさらなる弾圧強化の策動を施そうとする権力の露骨な意図を見落としてはならない。展望なき武装蜂起を[illegible]昨秋[illegible]をはじめとして火炎ビン戦術等の無用な挑発行動を先頭に立って繰返し、われわれ反独占民主勢力に一貫して敵対する中で、われわれの闘いの困難さの一つの要因をつくり出す役割りを果たしてきた彼ら「赤軍派」が再びあくなき挑発の無益な行為を繰り返したことに対し、われわれは彼らへの哀れみとともに鋭い批判を加えていかねばならないのは言うまでもない。がしかし何よりも心せねばならないのは、「第三者を人質にした乗っ取り」[illegible]に対する、大衆の道義的反発を後だてにした権力の弾圧（四・一の赤軍派による屋内集会の事前禁止「航空機強奪罪」立法化による乗客の事前検査）のわれわれの側へのなし崩し的適用である。これに対するわれわれの今後一層の組織性の強化と自覚が必要である。

不合理な「金浦空港」着陸の真相は現在迄明らかにされていないが人民共和国による対空砲火のデッチ上げ等々によって日韓両政府が行なった反共宣伝策動を見るならば何らかの政治的策動が行なわれた事は明らかである。このように政府の自らの策謀を陰蔽した形でのマスコミ等を通じてのイデオロギー攻勢、弾圧の強権的策動に対して、われわれは今後のより一層の自覚ある闘いの必然性を、この一連の事件の中から確認せねばならない。

70年の学生戦線　その3
京大学生運動の再生へ
京都大学支部委員会

昨秋期闘争の総括

1、「正常化」路線への反撃

昨年八月「大学立法」以降トロツキー諸派の極「左」戦術を利用した官憲の導入が続き、民主的改革闘争の収拾局面への移行という条件のなかでわれわれは「大学立法適用反対、改革準備委確立、授業再開延期」を基本的項目とし、まずそれを実現することが学内官僚ブロックの台頭と自主規制の強化を阻止し徹底した改革への有利な地歩の獲得であり、その闘いが政府独占の教育政策への具体的攻撃であること、同時に政府独占の教育再編策動が政治経済軍事全般の再編と関連においてなされる以上、それへの攻撃が必然的に政治課題と不可分であることを明らかにしつつ各クラスの独自な団交要求項目の作成をもとに団交実行委を結成して行った、われわれはその過程で一切の改良、改革を革命の彼岸に押しやる「最大限綱領主義」的思考しかできぬいわゆる旧「全共闘」支持層もクラス実行委を通して組織化し物質化していく事に成功し10・4教養部長団交を500名の参加のもと実現し不充分でありながらも「改革合同委」を克ち取った。また工学部を中心とした再度のスト構築をも実現していった。それらの成果は民青派の「改革合同委」の骨抜きと、スト解除策動により次の勝利への武器へ転化しえなかったが、われわれはクラス末端からの組織化を昨秋期闘争の中心的課題、10・21闘争から佐藤訪米阻止へと合流させていった。

2、学園課題と政治課題との結合

収拾局面という困難な局面のもと旧「全共闘」支持層の内部に動揺と分岐をもたらせクラス末端からの組織化により、改革闘争の反独占民主主義の政治性を明らかにし、その延長上に政治課題との結合による政府独占の政策転換＝反独占統一戦線樹立をも展望する目的意識性を大衆自身の意識性に平準化し、われわれのまわりへの一層の結集を実現したわれわれは、次に一〇・二一闘争に向け「安保破棄、沖縄基地撤去即時返還、佐藤訪米阻止、内閣打倒」のスローガンを基本課題とし、再び各クラスに一〇・二一闘争実行委の組織化をはかり、一〇・二一全関西学生共同闘争実行委の旗のもと二千名の学友とともに総評労働者と連帯し闘い抜いた。ここで留意せねばならないのは、学園課題と政治課題の有機的結合を、各クラスにおける団交実行委と10・21闘争実行委との有機的組織化として物質化し大衆自身を政治経験へ合流しえたということである。

3、10・21闘争十一月佐藤訪米阻止闘争と沖縄全軍労連帯闘争

われわれは各クラスの実行委を背景に原則的隊列の一層の強化を実現したがその成功の基礎には第一にスローガンにおける優位性、すなわちトロッキー主義派の折衷の産物「〇〇闘争勝利」ではなく過去の諸闘争の成果のうえに次の勝利を展望するスローガンを明確に提起したこと、第二に「〇〇軍団」作りに血道をあげ「北大阪制圧」を夢想し「労働者の体制内化」と呪文の如く語るトロ諸派に対し、職場・生産点における組織労働者総評労働者との連帯という方針を提起したこと。第三に課題と基本戦術の一致による全ての自治会、実行委の共同闘争を提起したことにある。かかる基本路線の正しさは、10・21闘争の圧倒的成果により実践的に証明された。すなわち10・21闘争の全国百万の総決起は、政府独占の反動性・侵略性とその抑圧政策を大衆的に暴露し、それと有効に対決しうる部隊が職場に基礎を置く組織労働者であることを明らかにし火炎ビンに象徴されるトロッキー主義諸派の極「左」日和見主義と、民青派の徹底した右翼日和見主義をも同時に明らかにした。

かかる闘争の成果は十一月佐藤訪米阻止闘争を京大において五日間ストライキとして継承され民青派をして「取りくみが遅れた」と言わしめ、トロツキー諸派がストを提起はするがストを担うことなく現地へと逃亡するなかで、われわれはクラス討論・デモ等を実質的に指導しながら同時に中央現地闘争八〇名派遣で闘い抜いた。

このことは、学園闘争の過程で「右翼的」層に依拠するほかすべを知らなかった民青派の混乱を示し、旧「全共闘」支持層の「クラス反戦共闘」への分岐を一定程度露呈した。そして一〇・二一佐藤訪米阻止闘争の成果は七〇年初頭沖縄全軍労連帯闘争へと継承されその連帯闘争の過程で多数のクラスで反安保実行委、沖縄ゼネスト連帯闘争委と恒常的闘争委として定着化していった。

70年代闘争への前進と「層としての学生運動」再生への道

全国の学友諸君！　七〇年代とは、真に政府独占の従来の体制安定装置としての一切の懐柔的政策の破綻と、それによる一層の政治的反動と経済的抑圧政策に対する反独占民主勢力の諸戦線における改革、政策転換↓反独占統一戦線樹立をめざす苛烈な闘いの時代である。その諸闘争に勝利すべき学生戦線の任務は学園における民主的改革、民主的諸権利の獲得拡大と全人民的政治課題の結合をはかり、それら諸闘争の本隊ー組織労働者のまわりへの自覚的一翼として結集し、闘い抜くことである。

その実現は総括の項で明かなごとく各学園各クラスで具体的組織化をはかり、それを一政治勢力として確立させることであり、そのことは担い指導する主体の強化と不可分である。全ての戦線での具体的組織化（クラス末端からの研究会↓恒常的闘争委）とわが同盟のまわりへの結集を貫徹し、その過程で一切の日和見主義を動揺させ混乱させ粉砕しつくしわれわれのまわりへ結集させねばならない。

われわれはかかる任務を遂行しつつ四月安保沖縄闘争、中教審答申粉砕闘争を「課題と基本戦術の一致」による共同闘争としてより勝利的に闘い抜くであろう。このことが戦闘的自治会再建、層としての決起・七〇年代闘争勝利への道であると確信する。

4・28スト準備
大学闘争の再建へ
神戸大

【神戸大支部発】学友の一定程度の闘うエネルギーの停滞のなかで、安保ー沖縄ー大学の有機的結合のもと、沖縄全軍労連帯闘争を兵庫・大阪の地において原則的・戦闘的に闘い抜き、更には3・28中教審一般公聴会抗議闘争を唯一闘い抜いた、わが同盟神大支部は「革命的」自治会をかかげて極めて非民主的な選挙で登場した現執行部（中核・フロント・社青同協会派）を形式的に承認するとしても、彼らの自治会ひきまわしを許さず、四・二八闘争を中心とする安保沖縄闘争と、中教審答申ーその実質化としての学園ロックアウト体制、松下教官処分策動ー粉砕闘争を闘うなかで代議員会の定期開催を軸にクラス末端からの組織化をつうじて、戦闘的自治会運動の再建をかちとり、4・28沖縄闘争をストライキでもって闘うべく活動を展開している。

わが学園においては教育の帝国主義的再編の実質化（中教審答申の実質化）として学内反動派ー事務官僚による学園ロックアウト体制、私服警官の学内立入り、レッドパージにつながる松下教官処分策動として展開されている。

かかるなかで開かれた4・4代議員大会は過半数に満たず成立しなかったけれども、執行部が何ら明確な方針を提起しえないなかでわれわれは松下教官処分問題を中心にして四月安保ー沖縄ー大学闘争の方針を大胆に提起し出席代議員全員一致で「秘密教授会公開」の決議をかちとった。われわれはかかる代議員会での成果を踏え、さらに対教授会団交を追及するな

・桃大学生戦線の再建へ
昂まる民学同への

【桃山学院大学支部発】六九年桃大学園闘争の収拾的局面に規定されいわゆるトロ諸派連合としての「全共闘」の解体と、あいも変わらぬセクト的右翼日和見主義に埋没する民青の一切の闘争放棄の中で、昨秋安保闘争を頂点に、全国学園のみならず桃大においても大衆運動は一定の後退的局面を強いられていた。このことは大衆運動の全国的指導部隊を必須のものとしていたわけであるが、とりわけ桃大における、全戦線にわたる闘争の大衆的、戦闘的再生と、それを指導しうる政治同盟の登場を日程にのせた。今や闘う学友のエネルギーは厳然として存在し、沸騰していた。しかしながら10・21闘争を一切の政治「党派」が「左」右にネグレクトする中で、唯一戦闘的、大衆的に、しかもかかる否定的側面の存在にもかかわらず、一〇・二一闘争委に圧倒的に結集した学友は、十一月佐藤訪米阻止闘争を指標に「平和と民主主義をめざす学生共闘」として総合流し、桃大における学生戦線の大衆的・戦闘的再生のための一切の任務を担うべくその礎を強固に形成したのであった。

学生共闘の、桃大学生運動の指導的部隊としての本格的登場は、

大阪府同盟
4・3春闘連帯に決起

四月三日全国主要単産における1時間から24時間にわたるストライキを含め春闘第三波統一行動が闘われた。昼夜二度にわたる集会が扇町公園でもたれた。

七〇年闘争の一環として春闘は独占の「合理化攻勢」に対し鋭い反撃を加えている。3・15春闘第二波統一行動には総評50万の決起があり第三波を前に全逓が三波におよぶ休暇闘争を闘い抜いている。この総評労働者の職場からの闘いに連帯し、民学同の旗のもと3・15ー三百名、4・3においては雨中をついて連帯集会を貫徹した。今年の春闘が各職場における闘いを積み重ね安保破棄、佐藤内閣打倒のスローガンを正しく提起しうるならば六月全国ストライキを含む巨大な七〇年闘争の展開と「民労懇」に代表される労働戦線の右からの切り壊しを阻止しうる。沖縄全軍労第三波ストを本土から支えるものとして4・3春闘第三波までに示された労働者階級の闘いを今後一層支援し、共闘を断固追及しなければならない。

平和委の再

【大阪市大支部発】四月闘争は、沖縄全軍労第三波ストと固く連帯した〝日米共同声明実質化粉砕〟の闘いとして展開されようとしている。

現在、教養部が学年末試験中という極めて困難な状況にありつつも、一日から開始された新入生入

1・21、2・23全軍労を支援

【神奈川大学支部発】七〇年代日本帝国主義の強化・侵略の基本路線＝日米共同声明に対する反撃は沖縄全軍労と本土人民との結合した闘いにより開始された。首都においては、総評労働者を中格として1・21、2・23全軍労支援闘争として闘われ、われわれは全都学生共闘の旗の下、五百の組織された学生部隊として闘い抜いた。かかる闘いは、日米共同声明に真っ向から対決して闘い抜いている全軍労を本土人民との固い結合によって、全国的闘争を創出し、同時に昨秋以降、民主勢力の一定の後退局面をうち破り、闘いの立ち遅れを克服する闘いであった。

かかる中で全軍労闘争の決定的意義を理解し得ず、その連帯の道を見失って、われわれ総評ー学生の集会を破壊せんと策動する革マル派の犯罪性は断固糾弾されねばならない。われわれは一～二月闘争の実績を基礎に、4・48を頂点とする沖縄ー安保闘争と答申粉砕神大改革闘争の再構築の闘いを有機的に結合させ、学友の圧倒的決起と全学ストライキでもって断固として闘いを進めてゆく決意であるし、その準備を着々と行なっている。